

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

○議長 横尾 武志君

2 番、内海議員の一般質問を許します。内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

皆さん、お疲れさまです。最後ですので、よろしく願いいたします。

それでは、通告書に基づきまして、2 番、内海が一般質問をさせていただきます。

件名につきましては、砂像イベントの再開ということでございます。

平成 26 年度の施政方針におきまして、平成 18 年度より休止しておりました砂浜の美術展を、新たな砂像イベントとして再開することとなっております。その概要につきましては、まず 1 点目の質問をお願いいたします。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

先ほども、益田議員のときにもお話しましたけれど、現時点での素案という形の中でご説明をしたいと思えます。

新たな概要という形で、この新たなイベントの目的としましては、町の観光戦略の一つとしてのイベント展開をする。福岡県ではオンリーワンのイベントとしての優位性を生かし、町を知ってもらい、来町してもらい、町のイメージアップなどを目指すという形でしております。

3 点目として、商業ベースでのイベントとしての視点、経済効果は 2 次的なものとして位置づけを行い、このイベントを行うようにしております。このため、砂像の展示を活用したイベントの創設や同時開催事業による出店、協賛セールなどについては、観光関連業者や商工者が自発的に行っていただきたいという形の中で考えております。

場所につきましては、海浜公園のアクアシアンの西側の芝生広場、開催時期につきましては 11 月の 1 日から 12 月の 25 日までで、その期間中、ライトアップを 11 月の 28 日から 12 月の 25 日までを予定という形になります。

通常の時間帯での営業につきましては、9 時から 17 時、ライトアップ期間中につきましては、9 時から 20 時までという形の中で予定をしております。

砂像展示を中心としたイベントとして展示期間を 2 カ月間で、見学ができるようなイベント構成として考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

先ほど、益田議員の一般質問の中にもご回答がありました。今回計画されております砂像イベント、場所につきましては、アクアシアンの西側を拡幅してということですが、従前の砂浜の美術展とは異なるかもわかりませんが、芦屋のイメージというのは、あの広大な砂浜、海浜を活用していかにイベントを盛り上げるかということだと思っております。今回、ちょっと狭隘にはなろうかと思いますが、レジャープールアクアシアンの西側を使うという意図は何かございますか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

基本的に、この西側の芝生広場を使うという形の中の計画につきましては、従前の砂浜の美術展は 5 日間程度の開催でありましたけれど、今回は 2 カ月間という形で予定しておりますので、従前の砂浜で展示をするという形のほうが、維持管理をしていくことが非常に難しいのではないかということが、まず 1 点目になります。

それと、あと、平成 26 年度より一応里浜づくりのほうが開催されますので、その事業に伴って活用しにくくなるのではないかという形の中で、2 点目の問題点として考えております。

それと、あと、展示のためのエリア分けや通路の照明関係や、警備関係の費用が縮小できるのではないかというふうに考えております。

あと、アクアシアンの施設内にありますので、フェンスで仕切られて、維持管理がしやすくなるという形で考えております。あと、制作するために必要な水や電気設備の確保がしやすくなるという形の中で、今回、西側の芝生広場を選定したという形になります。

以上になります。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

一つの囲まれたエリアでの開催ということで、いろいろな面でメリットがあるということですが、今回、先ほどの益田議員の質問の中では、既存の 25 メーターをさらに 25 メーター延長して 50 メーターぐらいの、合わせて 50 メーターですか、25 メーター拡幅するというご回答がございました。

それで、拡幅する場所は、ちょうど真ん中の多目的広場、夏場では第 2 駐車場という捉え方をされておりますけども、この 25 メーター拡幅することによって、レジャープールアクアシアンが営業している間は、当然駐車場として活用されているんですけども、今回、増設のフェンスを移動することによって駐車台数が減ると思いますけども、大体何台ぐらいの台数が減る予定でし

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

ようか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

横幅として 25 メーター、長さとして 80 メーター強の長さになりますので、台数としては約 100 台程度縮小するという形にはなるかと思えます。

以上です。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

そうしますと、レジャープールアクアシアン、夏休みに入りまして、土、日が大変混雑しております。もう連日車が待ち時間が多分あるんだと思っています。そういうような中で 100 台も減少すれば、利用者到大変ご迷惑がかかるのではないかと。

それとあわせて、何日間ですか。大体土曜日、日曜日入れて、夏休み以降が大体 10 日ぐらいかかりますか。1 台 500 円として、1 日が 100 台で 5 万円、10 日として約 50 万ぐらいの利益損が出てまいります。

その中で、レジャープールアクアシアンに対する影響というのは、対策か何か考えておられますか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

フェンスの移設等につきましては、平成 26 年度につきましては 9 月以降という形になりますので、今年度については影響はないのかなというふうには考えております。

内海議員さんが言われます来年度以降、拡張した場合の影響につきまして、海浜公園につきましては、100 台減という形の中で、約 900 台の駐車スペースという形になるかと思えます。平日につきましては、平均大体 600 台ぐらいという形になりますので、そこは問題ないのではないかというふうに思っております。

今言われました週末に関しましては、多いときで約 1,800 台ほど来ているという状況になっておりますけれど、午前、午後での入れかえ等という形になりますので、100 台減ったという形の中で、駐車台数が減りますけれど、入れかえ等があるので問題はないのではないかというふうな形で、今、観光協会に確認をしたところ、対応できるのではないかとという形では上がっております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

余り影響がないということでございますけども、レジャープールの利用者に不便がないような対策をお願いしたいと思っています。

ただ、場所につきましては、皆さんもご存じのように、あの海浜公園、約 10 万平米ぐらいございます。その中で一番奥の芝生広場、広大なピッチがございます。今、遊具が設置され、一部 10 台ぐらいの駐車場を設置しております。

それで、水巻にみどりんぱあーくというのがございます。これは大変利用者が多くて、いろいろな子ども連れの方がたくさん利用されております。ただ、海浜公園の奥については、なかなか利用者がおられない。地元の方でも、あのエリアがあるということを知らない方がたくさんおられます。

それで、常設ということのお考えでしょうけども、奥の芝生広場の活用というのは、ご検討か何かされましたでしょうか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

砂像のイベントについてという形の中で、そこをどうするかという形の中の検討は一応しましたけれど、基本的に仕切るフェンス等がないという形もありますので、今回のイベントについては、入場料等もやはり収入として考えておりますので、芝生広場になると、今度はフェンスを設置したりだとか、水関係を、あそこに水道というのがございませんで、そこまでまた水道管を布設しないといけないという形で、もっと経費がかかるという形になりますので、ちょっと芝生広場は無理ではないかという形の中の結論になっております。

それと、あと、砂の問題が、終わった後にまた、そこで再利用で次年度以降も使っていくという形で一応計画としては考えておりますので、芝生広場にその砂を置くという形になると、それを仕切るだけのまたフェンスなりを考えないといけないのかなと。そういうところを勘案して、今回のアクアシアの西側の芝生広場に置けば、フェンスもありますし、そこでの仕切り等もできて、夏場については、一般のお客さんもそこが休憩スペースとして広く使えるんじゃないかという中で、場所の検討を含めた中で、そこはちょっと今回は使わないという形の結果になっております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

まあ、いろいろ検討された結果ということでございますので、それは、その場所を有効活用していただきたいと思っています。

では、次に、今回、平成 26 年度当初予算におきまして、砂像イベントの補助金ということで、1,450 万予算計上されております。それで、今回のこの砂像イベントの総事業費は、大体幾らぐらいの予定でしょうか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

今、内海議員さんが言われました町の補助金としては、1,450 万円と、入場料という形の中で 300 万を一応見込んでおります。入場料金につきましては、大人 300 円、小中学生を 100 円、幼児無料という形の中で考えております。

積算としましては、大人のみという形の中で積算をしまして、1 日平均 100 人程度という形の中と、ライトアップ時には 40 人増という形の中で、その他、あと、共催イベント等を行ったときに増という考えを持った中で、9,500 人程度という形で、55 日間の積算で 300 万という形で見込んでおります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

入場料と 1,450 万を合わせて約 1,750 万が大体総事業費ということでよろしいわけですね。これは、ちょっと比較にはならないんでしょうけども、以前、砂浜の美術展をやっておりました。そのときのちょっと過去の実態なんですけど、平成 15 年度には入場者数が 7 万 4,000 人、総事業費が 6,750 万円、町の補助金が約 3,000 万円。平成 16 年度は 6 万 5,000 人で、町の補助金が 3,345 万、総事業費が約 6,700 万。最終年度の平成 17 年度は 9 万 6,000 人の入場者に対し、補助金がちょっと減って 1,136 万円、総事業費が 6,500 万ということで、今回の町の補助金 1,450 万、従来の部分からすれば約半分程度事業費を見ておられます。

ただ、入場料を比較しますと 9,500 人ということですから、従来の 10 分の 1 弱の予定だということで、果たして費用対効果がどうなのかなという、ちょっと懸念をしております。

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

特に、今回、先ほど答弁がありましたように、開催時期が 11 月の 1 日から 12 月の 25 日ですか、ということをご予定されているようでございます。皆さんご存じのように、芦屋の海岸、冬場はもう大変風も強く、海風が大変強い状況でございます。

こういうような中で、果たして来場者が来られるのかな。まあ多くの方がお見えになるのかなというのが、ちょっと気がしておりますけれども、この期間をそのように設定された理由か何かございますか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

この期間の設定につきましては、1 点目としましては、他の砂像のイベントと重複しない時期であり、砂像制作を依頼する彫刻家の方や日本砂像連盟の日程等をまずは確保しやすいということが 1 点目になります。

2 点目に、平成 26 年度に関しましては、フェンスの移設や電気・水道設備の整備、それと、制作に当たります型枠の設置や制作の期間といった前準備などの一定の時間帯が確保できるように、この時期に設定をしております。

あと、3 点目として、既存で今やっております祭り芦屋や、今年度につきましては、航空祭も 11 月の中旬にあるという形になりますので、そういうイベントの共催が可能であり、そのため来場者の増が見込まれるのではないかとというふうに思っております。

あと、4 点目として、冬場活用されていないこのレジャープールの施設を、一つの砂像の展示場所として活用することができるのではないかとというふうに考えております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

芦屋の観光で一番欠点なのは、冬場の利用が少ないと。観光基本構想の中にも冬場の利活用をどうするかという問題提起がされております。

それで、今のお話では、今年に限っては、そういうようないろんな準備の段階で、このような設定をされたんですけども、次年度以降も継続とすれば、また、これの日程変更というのもあり得るわけですか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

現段階ではそこまで、次年度以降のことはまだわかっておりません。今回開催する状況によって、また実行委員会を立ち上げた中で検討していくという形になるかとは思いますが、夏場のイベント等、海浜プールとかありますので、そこでまた制作をするという制約も出てくるのかなというふうになりますので、そこら辺は次年度以降の検討課題になるかと思えます。

以上になります。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

現在、砂像をやっているところが鳥取県の砂丘のほうで、こちらは大体 4 月ぐらいから 1 月の大体 6 日ぐらいまでやっていますか、約 9 カ月間。それから、加世田の吹上浜の砂の祭典では、大体 5 月の連休日から、従前は大体 10 日間ぐらいでしたけども、平成 26 年度は 30 日間の開催ということで、長期的な開催によって、より多くの方々に来場していただくというねらいがあろうと思っています。

だから、先ほど申し上げましたように、芦屋の場合、いろんな過酷な条件ではないかなという気がしておりますので、開催日については、もう一度ご検討をお願いしたいと思っております。

それから、従前の砂浜の美術展とは違いますけども、多くの町民の方々が携わっておいりました。特に職員、それから地域の方々、また、町内業者、そういうような方々のかかわりの中で、砂浜の美術展が成功裏に終わっております。

今回の新しい砂浜のイベントにつきましては、できるだけ何か行政主導型というような気がしております。それで、芦屋町が今までやってきたイベントで、長続きしない大きな理由というのが、行政主導でやってきたために、なかなか民間の力が活用できてないと。そのために、なかなか継続ができてないというのがネックではなかったかと思っております。

今回も補助金が結構多額でございますし、専門の方、砂像の彫刻のすばらしい方をお呼びすることは構わないんですが、今申し上げましたように、町の職員、それから地域住民、それから町内業者、このような方々とのかかわりというのは、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○議長 横尾 武志君

地域づくり課長。

○地域づくり課長 松尾 徳昭君

今、内海議員さんが言われましたとおり、町が主導でやっていたという前例があるのかなと。砂像制作につきましても 9 割ぐらいが町の職員がやって、通常の業務に支障を来しているのではないかというふうな問題もございました。

今度、あらたな砂像イベントを実施し、また継続していくためには、言われます町内ボランテ

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

ィアとか、各種団体と協働でやっていかないといけないというふうを考えておりますし、また、この実行委員会の立ち上げにつきましては、現在、職員のプロジェクトチームを設置して、実行委員会の組織編成について検討を進めていきたいというふうに思っております。

この実行委員会の中での実行委員さんの役割や分担、責任等を明確にし、より効果性のある組織形成を行って、事務局任せになることのないような形で、みんなで協力して、自主的、自発的に行っていけるようにしていかないといけないというふうには考えております。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

やはり地域の方々との連携をとることによって、やっぱり喜びを感じられるし、やはり誇れる芦屋町ということになろうかと思っております。よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、次に、要旨 2 点目でございます。

砂浜の美術展、これは行財政改革の影響により平成 18 年度から休止されておりましたが、もうご存じのように、平成 21 年度でしたか、今回予定しておりますレジャープールアクアシアンの西側のほうで、小規模な砂像制作を行っております。2 日間ぐらいでしたけれども、一般開放をしております。

しかし、これも継続性があるかなという思いがしておりましたけども、なかなか先ほど申しましたように民間活力が活用できないということで、もう単年度で終わっております。

こういうような中で、町長、マニフェストにいろいろ書いてありました。まず、平成 19 年度には、もういち早く花火大会を再開をされております。今回、平成 26 年度施政方針の中で、この新しい、内容は違いますが、砂像イベントを思い立たれるといたしますか、再開するという思いが出ておられますので、その辺の心の動き方といたしますか、思いをちょっとお願いいたします。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

実際、内海議員は職員のときから、当初から参加されておられましたので、内海議員もこの砂浜の砂像については深い思い入れがあるのではないかとご推察するわけでございますが、過去の美術展のことにつきましては、もう今、内海議員が質問等、その中のご説明があったとおりでございます。

振り返ってみますと、平成 7 年から平成 17 年まで 11 年間やってまいったわけでございます。

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

年々規模が大きくなりまして、費用もどんどんかさんでまいりました。私も参加させていただきまして、制作をした経験もあるわけですが、ただ、いかんせん、芦屋町の財政上の理由によりまして、平成 18 年に休止というふうに決まったわけですが。

この平成 18 年というのは、議員もご指摘がありましたように、財政上の理由から砂浜の美術展とあわせて花火大会休止という形の中で、非常にこの年は、芦屋といえば、もう夏のイベントがたくさんあって、いろんな方のお出でになられたわけですが、最も大きなイベントのこの 2 つがなくなったということで、本当に何となくこの 18 年の年というのが、皆さん同じような思いがあったのではないかと思います、何か抜け殻のような感じで、何か寂しい枯れた町に平成 18 年はなったわけですが。

そういうことで、次の年に選挙がございまして、私もマニフェストに、とにかくこの砂浜の美術展と大正時代から続いた花火大会を何とか再開したいということでマニフェストに掲げさせていただいたわけですが。

花火大会につきましては、もう平成 19 年の、次の年にいろんな方からご助力、ご協力をいただきまして再開にこぎつけたわけですが、この砂浜の美術展だけは、今ずっとご心配をいただいておりますように、財源の問題と人の問題、この 2 つが大きくのし上がってきたわけですが。約 8 年間の空白があったわけですが、ようやく、まあやはり競艇事業が少し安定してきたということで、やはり芦屋の魅力をここでもう一度再開できればなという思いがありまして、今年度から新しい形の、新砂浜の美術展といいたいまいしょうか、今までは平成 7 年から平成 17 年までしたときは、お盆の後でしたので、マスコミもかなり取り上げていただきました。それで、夏休みということもありまして、子ども連れ等々たくさんの方にお出でいただいたわけですが。

しかしながら、るる、いろいろ説明がありましたように、諸般の事情でこういう時期という形の中でさせていただくと。とにかくスタートする、事を起こすということで、まず一步から始めないといけませんので、それを始めまして、それから、どういうふうに展開していくかというのは今後の課題であろうかと思っております。やはり 11 年間、議員言われるように、携われた方の技術、ノウハウというものがあるわけですが。それがまだ技術を持っておられる方が指導できる間に、これが再開できたということは、まあまだ予算は通っておりませんが、再開のご提案をさせていただいたということは、新しいまた芦屋の魅力を復活できるということでご理解をいただきたいわけですが。

財政事情につきましては、まだまだ予断は許しませんが、今、役場の若い職員のやりましようという熱意というか、芦屋を思う若い職員の気持ち、それから、何と言いましても福岡県でのこの芦屋の地を生かした地の利のオンリーワンの砂像というか、芦屋でしかできない、このことは

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

芦屋でしかできないということで、いろいろ若い職員ともいろいろ話をするんですが、たくさんできる。これをやって、それから、今、ビーチサッカーがっておりますが、ビーチバレーボール等々、結局そういうようなこともできるようにして、芦屋にどんどん人が来ていただけるような形にすることが、芦屋の魅力を生かしたまちづくりではないかと思っております。

それから、もう一つ、芦屋港湾の商業化、レジャー港化ということで、もう数年前から国と県にお願いしております。これも少しずつ前に進んでおります。そうすると、あの辺は港湾を含めて砂浜、それからレジャープール、それから芝生広場等々大きく変わってくるのではないかと思っております。その一石を投じるという意味もあるわけでありまして。

朝から定住化政策等々、人口問題、ご質問いろいろあったわけですが、これも一つの芦屋ブランドとしての魅力の一つだと思っておるわけでございます。

今までずっと町内の方はなかなか評価をしてくれなかったんですが、いろんな人とお会いすると、やはり芦屋の砂浜の美術展の話題が出るわけございまして、それほどインパクトが強かった、強いというイベントであったわけでございます。福岡県の町村会総会等に行きましても、何人かの首長さんが、あるときに行きました、砂浜の美術展に行きました。何でやめたんですかとかいうような質問等々たくさん来るわけでございますが、確かに芦屋は芦屋釜もありますが、これはやはり茶の湯というのは一部の方というか、なかなか一般の方にとりましては、非常に貴重な、芦屋町にとっても貴重な文化であるわけでございますが、なかなか広がりがないという形の中でありまして。ここでもう一つ、この砂浜の美術展が再開できれば、ナンバーワンとオンリーワンという形の中で、新しい魅力の発掘になるのではないかと思っております。

とにかく、やってみようということで再開しておりますので、一丸となってこの芦屋の町の活性化の一助になればなと思っておるわけでございます。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

ただいま町長が申し上げられましたように、砂像が休止になった折には、町民の方からの失望の声といいますか、芦屋町に魅力がなくなったという声も聞きますし、早く砂像の再開をしてほしいという要望も出ておりました。

私も過去に砂像制作にかかわった者として、今回、施政方針にこういうような砂像の再開を述べられたことを大変うれしく思っております。

ただ、平成 18 年ですか、砂像を開始した折、私たちも博多駅、小倉駅、いろんなところで砂

平成 26 年第 1 回定例会（内海猛年議員一般質問）

像モデルとして掘ってまいりました。ただ、それを周知するには、やはり四、五年かかっております。だから、これを今回の単年度で終わるのではなく、やはり継続が必ず必要ではないかという思いがしております。

そこで、町長、施政方針の一番冒頭に述べられましたように、2 期目の最終年度という捉え方の中で、今回これを提案されておりますが、今後の継続性についていかがお考えですか。

○議長 横尾 武志君

町長。

○町長 波多野茂丸君

いや、それはまだ、あと気力と体力が残っておるか、後援会等もありますので、いろんな方とご相談申し上げる次第であります。

以上でございます。

○議長 横尾 武志君

内海議員。

○議員 2 番 内海 猛年君

ありがとうございます。明確な答えじゃございませんけど。

芦屋町には観光資源がたくさん潜在しております。しかし、これの有効活用が図られてないというのが現実ではないかと思っております。観光立地を唱えておりますけれども、なかなか集客を図ってないと。今回新しい砂像のイベントということを再開される予定でございます。提案されておりますので、今後、実行委員会の中で十分協議していただき、芦屋の魅力発信につながるような形での成功を祈っております。

これをもちまして私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長 横尾 武志君

以上で、内海議員の一般質問は終わりました。